東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 23 号（2018), pp.131-138.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.23 (2018), pp.131-138.

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

ウクライナ語における否定、形容詞と連体修飾複文

Negation, Adjectives and Compound Sentences of Adnominal Modification in Ukrainian

小川 暁道
Akimichi Ogawa

東京外国語大学非常勤講師
Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿の目的は、特集「否定、形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第 23 号，東京外国語大学）における 33 個のアンケート項目に対するウクライナ語のデータを与えることである。

Abstract: This report aims to provide the Ukrainian data which answers the thirty three survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 23, which focuses on the cross linguistic study of 'negation, adjectives, and compound sentences of adnominal modification'.

キーワード:ウクライナ語、否定、形容詞、連体修飾、複文

Keywords: Ukrainian, negation, adjective, adnominal modification, compound sentence

1. はじめに

特集「否定、形容詞と連体修飾複文」に関する 33 項目のアンケートに、ウクライナ語の用例を提供する。調査協力者は Олена Маляренко（Olena Maliarenko、30 代女性、母語：ウクライナ語・ロシア語、キエフ大学卒）である。

2. データ

1. これは私の本ではない。［名詞述語文／コピュラ文の否定］

Це	не	моя	книжка.
this	not	my-NOM	book-NOM[1]

現在時制の名詞述語文において、be 動詞に相当する動詞 бути は通常用いられない。否定の助詞 не は否定される語の直前に置かれる。

2. この部屋には椅子がない。［存在文の否定］

В	цій	кімнаті	немає	стільця.
in	this-LOC	room-LOC	no-PRED	chair-GEN

存在否定の文においては無人称述語 немає「～がない」が用いられ、主体となる語は属格となる。

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 原則としてグロスは今回のテーマに関するものを中心に付ける。略号一覧は文末に記す。

3.　この部屋には一つも椅子がない。［全部否定・モノ］

В	цій	кімнаті	немає	жодного	стільця.
in	this-LOC	room-LOC	no-PRED	not_any-GEN	chair-GEN

否定の強調として、否定代名詞 жодний/жоден「一つも～ない」が使用されるが、この際には否定の助詞は置かれない。2.と同様、存在否定における主体は属格となっている。

4.　その部屋には誰もいない。［全部否定・ヒト］

В	тій	кімнаті	нікого	немає.
in	that-LOC	room-LOC	no_one-GEN	no-PRED

人・動物を表わす否定代名詞 ніхто が用いられ、2.および 3.の文と同様に主体は属格となる。

5.　その本はこの部屋にない。［所在文の否定］

Ця	книжка	не	знаходиться	в	цій	кімнаті.
this-NOM	book-NOM	not	be-IPFV.3SG	in	this-LOC	room-LOC

所在の否定においては存在否定とは異なり、動詞 знаходитися「所在する、ある」の主語であるため、主体となる語は主格である。

6.　この犬は大きくない。［形容詞文の否定］

Ця	собака	не	велика.
this-NOM	dog-NOM	not	big-NOM

1.と同様、現在時制において be 動詞に相当する動詞 бути は通常用いられず、否定される語の直前に否定の助詞 не が置かれる。

7.　この犬はあまり大きくない。［形容詞文の部分否定］

Ця	собака	не	дуже	велика.
this-NOM	dog-NOM	not	very	big-NOM

否定の助詞 не は否定される語の直前に置かれるという原則により、形容詞の部分否定では副詞 дуже「とても」が否定される。

8.　この犬はあの犬より大きい。［比較級］

a)	Ця	собака	більша,	ніж	та.
	this-NOM	dog-NOM	big-COMP.NOM	than -CONJN	that-NOM
b)	Ця	собака	більша	за	ту.
	this-NOM	dog-NOM	big-COMP.NOM	than-PREP	that-ACC

形容詞 великий「大きい」の比較級は більший で、原級と同様形容詞の語尾を持つ。比較の対象は a)の文のように接続詞 ніж によって表される場合と、b)の文のように前置詞 за+対格（主な意味は「～に対

して」）で表わされる場合とがある。a)は接続詞 ніж によって従属節が形成されるため、説の中では比較の対象は名詞や代名詞の主格や対格、副詞、句、主語と述語などで表すことが可能であるが、b)は前置詞であるため、格変化形を持つ名詞や代名詞、形容詞のみしか用いられない。他に前置詞 від+属格（主な意味は「～から」）によっても比較対象を表すことが出来る。

9. この犬がその犬たちの中で一番大きい。［最上級］

a)	Ця	собака	найбільша	серед	цих	собак.
	this-NOM	dog-NOM	big-SUPER.NOM	among	this-PL.GEN	dog-PL.GEN
b)	Ця	собака	найбільша	з-поміж	цих	собак.
	this-NOM	dog-NOM	big-SUPER.NOM	from_among	this-PL.GEN	dog-PL.GEN

形容詞の最上級は比較級の形に接頭辞 най-を付けて形成される。比較の範囲は前置詞 серед+属格（主な意味は「～の間で」）、з-поміж+属格（主な意味は「～の中から」）で示される。

10. 今日はあの人は来ない。［自動詞文の否定］

Сьогодні	та	людина	не	прийде.
today	that-NOM	person-NOM	not	come-PFV.FUT.3SG

否定の助詞 не は否定される動詞の直前に置かれる。

11. あの人はその本を持って行かなかった。［他動詞文の否定］

Та	людина	не	взяла	з	собою	тієї	книжки.
that-NOM	person-NOM	not	take-PFV.PAST	with	oneself-INS	that-GEN	book-GEN

他動詞文の否定においては直接補語は属格で表される。

12. 全ての学生が参加しなかった／学生は全員参加しなかった。［数量の全部否定］

Всі	студенти	не	брали	участі.
all-PL.NOM	students-NOM	not	take-IPFV.PAST	taking_part-GEN

11.と同様に否定文における他動詞の直接補語は属格で表される。

13. 全ての学生が参加したわけではない。［数量の部分否定］

Не	всі	студенти	брали	участь.
not	all-PL.NOM	students-NOM	take-IPFV.PAST	taking_part-ACC

всі「全ての」が否定されるため、否定の助詞 не はこの直前に置かれる。участь「参加」そのものが否定されるわけではないので、直接補語は対格となっている。

14. （私は買わなかった。しかし、決して）値段が高いというわけではない。［文の否定］

Я	не	купив,	але	це	не	означає,	що	ціна
I-NOM	not	buy-PFV.PAST	but	this-NOM	not	mean-IPFV.3SG	that-CONJN	price-NOM

висока.
high-NOM

この文においては文の否定は動詞 означає「意味する」を否定することによって表される。ただし、対比を表す並立複文に置いて、直前の述語を否定する際には助詞 ні が用いられる。

Все	на	очах	мінялося,	і	тільки	твоя	любов	***ні***?
all	on	eyes-LOC	change-IPFV.PAST	and	only	your-NOM	love-NOM	not

「目に映る全てのものは変わった、君の愛だけはそうではないのだろうか。」

15. 走るな！［禁止］

a) Не біжи!
not run-IPFV.DEF.IMP

b) Не бігай!
not run-IPFV.INDF.IMP

禁止の命令は不完了相動詞によって表される。またウクライナ語には移動動詞というカテゴリーがあり、定動詞（一定方向への移動「～へ移動中である／向かっている」）と不定動詞（不定方向への移動「行って帰って来る／動き回る／移動することそのもの」）がペアを成している。a)の例は「（ある方向へ向かって）走って行くな」、b)の例は「走り回るな／（諸条件により、そもそも）走るな」という意味を表す。

16. 大きな声を出すな！［他動詞文の禁止］

Не підвищуй голосу!
not raise-IPFV.IMP voice-GEN

15.と同様、禁止の命令は不完了相動詞によって表される。

17. 明日は雨は降らないだろう。［推量の否定］

Можливо, завтра не буде дощу.
possibly tomorrow not be-FUT.3SG rain-GEN

推量の要素は挿入語によって表される。また、存在否定文と同様、be 動詞 бути の未来形が否定され、名詞 дощ「雨」は属格となる。

18. あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。［目的節の否定］

a) Говори тихіше, щоб та людина не почула.
speak-IPFV.IMP quietly-COMP in_order_that that-NOM person-NOM not hear-PFV.PAST

b) Говори тихіше, щоб тій людині не було чутно.
speak-IPFV.IMP quietly-COMP in_order_that that-DAT person-DAT not be-PAST audible

目的節の中での否定となる。接続詞 щоб に導かれる節の中では、時制に関わらず動詞は過去形となる。a)では「あの人が聞かないように」という人称文で、b)では無人称述語 чутно が使用されており、「あの

人に（とって）聞こえないように」という主格主語の存在しない無人称文である。

19. 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。［否定のスコープの調節］

Я	сказав	так,	не	для	того,	щоб	вас	розсердити.
I-NOM	say-PAST	so	not	for	that-GEN	in_order_that	you-ACC	make_angry-PFV.INF

否定の対象となるのは「怒らせようと思って」の部分なので、語結合 для того, щоб の前に否定の助詞 не が置かれる。

20. 私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？［内の関係の連体修飾節・目的語］

a)	Де	книжка,	що	я	вчора	купив?
	where	book-NOM	what-REL	I-NOM	yesterday	buy-PFV.PAST
b)	Де	книжка,	яку	я	вчора	купив?
	where	book-NOM	which-REL.F.ACC	I-NOM	yesterday	buy-PFV.PAST
c)	Де	книжка,	куплена	мною	вчора?	
	where	book-NOM	buy-PAST. PASSP.F.NOM	I-INS	yesterday	

a)の関係代名詞 що は不変化、b)の関係代名詞 який は先行詞と性・数が一致し（ここでは女性・単数）、格は従属節内において必要な格を取る。ここでは動詞 купити「買う」の目的語となる対格である。他にも c)のように分詞を使用した表現も可能である。受動過去分詞は被修飾語と性・数・格が一致し、ここでは女性名詞 книжка「本」に合わせて女性・単数・主格となる。動作主は具格で表される。

21. その本を持って来た人は誰（か）？［内の関係の連体修飾節・主語］

Хто	та	людина,	яка	принесла	цю	книжку?
who-NOM	that-NOM	person-NOM	which-REL.F.NOM	bring-PAST	this-ACC	book-ACC

20.と同様、先行詞と性・数が一致し、ここでは関係代名詞は関係節において主語となっているので、女性単数主格となる。

22. この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。［内の関係の連体修飾節・場所］

a)	Ця	кімната	–	кімната,	де		ми	працюємо.
	this-NOM	room-NOM	COP	room-NOM	where-REL		we-NOM	work-IPFV.PRS.1SG
b)	Ця	кімната	–	кімната,	в	якій	ми	працюємо.
	this-NOM	room-NOM	COP	room-NOM	in	which-REL.F.LOC	we-NOM	work-IPFV.PRS.1SG

a)は関係副詞、b)は前置詞と関係代名詞により関係節が構成されている。関係副詞は不変化、b)の関係代名詞の先行詞は女性・単数、関係節の中では関係代名詞 який は所格となる。

23. 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。［内の関係の連体修飾節・所有者］

Я	вже	викинув	на	сміття	той	стілець,	у	якого
I-NOM	already	throw-PFV.PAST	for	rubbish-ACC	that-ACC	chair-ACC	at	which-RELM.GEN

зламалася	одна	ніжка.
break-.PFV. PAST	one-NOM	leg-NOM

所有表現の一つとして、前置詞 у+属格「～のところに」がある。関係節内で前置詞 у に関係代名詞 який の属格が続く。

24. ドアを叩いている音が聞こえる。［外の関係の連体修飾節］

a)	Стук	**у**	двері	гучний.		
	knock-NOM	in	door-ACC	resonant-NOM		
b)	Можна	почути	гучний	стук	у	двері.)
	possible-PRED	hear-INF	resonant-ACC	knock-ACC	in	door-ACC

「ドアを叩いている音」は専ら名詞句によってのみ表される。a)の直訳は「ドアを叩く音が聞こえる」、b)の直訳は「鳴り響くドアを叩く音を聞くことが出来る」である。

25. あの人が結婚したという噂は本当（か）？［外の関係の連体修飾節］

Чи	правдиві	чутки	про	те,	що	та	людина
INTERR	true-PL	rumor-PL	about	that-ACC	what-REL	that-NOM	person-NOM

одружилася[2]?
marry-F.PAST

前置詞 про「～に関する」に先行詞 те の対格、関係代名詞 що が続く。先行詞に具体的な意味はなく、«те, що ~»で「～が～すること」、「～であること」を表す。

26. 私はその人が来た時にご飯を食べていた。［時間節］

Я	їв,	коли	та	людина	прийшла.
I-NOM	eat-PAST	when- CONJN	that-NOM	person-NOM	come-PAST

時間の接続詞 коли が使用される。

27. 私はその人が待っている所に行った。［場所節］

Я	пішов[3]	туди,	де	чекає	та	людина.
I-NOM	go-PFV.PAST	there	where-REL	wait-IPFV.PRS.3SG	that-NOM	person-NOM

関係副詞 де とによって場所節は表され、先行詞を伴う。

---

[2] 男性が結婚する。女性が結婚する場合は вийти заміж
[3] 「出かけた」。「行って来た」の意味では移動動詞のうち不定動詞の ходити を使用する。

28. 私はその人が走っていったのを見た。［補文節・視覚］

Я	бачив,	як	бігла	та	людина.
I-NOM	see-IPFV.PAST	how-CONJN	run-IPFV.DEF.PAST	that-NOM	person-NOM

29. 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。［補文節・聴覚］

Учора	ввечері	я	чув,	як	вони	розмовляли.
yesterday	in_the_evening	I-NOM	hear-IPFV.PAST	how-CONJN	they-NOM	talk-IPFV.PAST

視覚や聴覚などの知覚動詞とともに接続詞 як が用いられ、この接続詞 як は「どのようにするか」という疑問詞的意味ではなく、単に「～するのを（見た、聞いた）」という意味である。

30. 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。［補文節・知識］

Я	знаю,	що	та	людина	вчора	прийшла.
I-NOM	know-IPFV.PRS.1SG	that-CONJN	that-NOM	person-NOM	yesterday	come-PAST

接続詞 що は思考、伝達などの内容を説明する従属節を形成する。

31. （昨日）彼は彼が今日ここに来たと言った。／（昨日）彼は、「私は今日ここに来た」と言った。［補文節・直接発話／間接話法］

a)	(Учора)	Він	сказав,	що	він	вчора	туди	приходив.
	(yesterday)	he-NOM	say-PFV.PAST	that-CONJN	he-NOM	yesrterday	there	come-IPFV.PAST
b)	(Учора)	Він	сказав,	«Я	сьогодні	сюди	приходив».	
	(yesterday)	he-NOM	say-PFV.PAST	I-NOM	today	here	come-IPFV.PAST	

a)の間接話法では 30.と同様に接続詞 що を使用する。発話時点から見て彼が「昨日来た」のであれば、使用する副詞は вчора となる。従属節中の動詞の時制は主節中の時制から見た過去・現在・未来となる。

32. 私はリンゴが（あの）皿の上にあったのを食べた。［内在節・従主・主主］

a)	Я	з’їв	яблуко,	яке	знаходилося	на	тарілці.
	I-NOM	eat-PFV.PAST	apple-ACC	which-REL.M.NOM	be-IPFV.PAST	on	plate-LOC
b)	Я	з’їв	яблуко,	що	знаходилося	на	тарілці.
	I-NOM	eat-PFV.PAST	apple-ACC	what-REL	be-IPFV.PAST	on	plate-LOC

関係代名詞を使用した構文となる。関係代名詞 який は先行詞と性・数が一致するが、従属節においては主語となるため、主格である。

33. 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。［内在節・従主・主目］

a)	Я	піймав	кота,	який	забіг	в	дім.
	I-NOM	catch-PFV.PAST	cat-ACC	which-RELN.NOM	run_into-PFV.PAST	into	house-ACC
b)	Я	піймав	кота,	що	забіг	в	дім.
	I-NOM	catch-PFV.PAST	cat-ACC	what-REL	run_into-PFV.PAST	into	house-ACC

先行詞の猫は対格であるが、関係代名詞と一致するのは性・数のみで従属節においては主語となるため、従属節の構造は 32.と同様である。

略号

ACC	accusative	対格	LOC	locative	所格
COMP	comparative	比較級	M	masculine	男性
CONJN	conjunction	接続詞	N	neuter	中性
COP	copula	コピュラ	NOM	nominative	主格
DAT	dative	与格	PASSP	passive participle	受動分詞
DEF	definite	定動詞	PAST	past	過去
F	feminine	女性	PFV	perfective	完了相
FUT	future	未来	PL	plural	複数
GEN	genitive	属格	PRED	predicative	（無人称）述語
INDF	indefinite	不定動詞	PREP	preposition	前置詞
IMP	imperative	命令形	PRS	present	現在
INF	infinitive	不定詞	REL	relative	関係代名詞
INS	instrumental	具格	SG	singular	単数
INTERR	interrogative	疑問詞	SUPER	superlative	最上級
IPFV	imperfective	不完了相			

執筆者連絡先:akimoga@hotmail.com
原稿受理:2019 年 5 月 9 日